

80年代アニメ論・その3

宮崎駿とその時代

出口 憲

今日の講演内容

- はじめに
- 宮崎駿とは
- 宮崎駿の80年代以前の作品を振り返る
- 宮崎駿の80年代作品を振り返る
- 軍事マニアとしての宮崎駿
- おわりに

はじめに

- 出口は 1969 年生まれ
- 1980 年代は 11 ~ 20 歳だったので、まさしく 80 年代のアニメを見て育った
- 11 歳のとき、ガンダムがブームとなり、中学で友達からザブングルを見るように勧められ、以後アニメを見まくるようになった
- ビデオデッキを買ってから、放送時間が重なるものはほとんど録画（週 20 ~ 30 本くらいは見ていたはず）

はじめに

- 「80年代アニメ論・その1」では、月刊OUTというアニメ雑誌を取り上げ、80年代がアニメの成熟期であったことを論じた
- 「80年代アニメ論・その2」では、富野由悠季を取り上げ、「皆殺しの富野」とも言われる彼の作品が常にゆらいでいることを論じた

宮崎駿とは

宮崎駿

- 1941 年生まれ
- 父親は航空機製造会社の社長
- 子供のころから絵がうまく漫画好き
- もともとはアニメーション制作者より**漫画家になりたかった**らしい
- 兄の影響で**兵器や戦争に関心**を持つ
- 学習院大学卒業後、東映動画入社
- 「太陽の王子ホルスの大冒険」を高畑勲、大塚康夫らと製作

宮崎駿

- 1971年TV「長くつ下のピッピ」企画、高畑勲・宮崎駿・小田部羊一が制作作業をするが許諾交渉に失敗し、企画が流れる
- 大塚に誘われ、1971年TV「ルパン三世」後半の演出を担当
- 1972・1973年映画「パンダコパンダ」製作、前述の「長くつ下のピッピ」のときのキャラクターなどが活かされる

宮崎駿

- 1974年、高畑、小田部らと「アルプスの少女ハイジ」を製作
- 1976年、高畑、小田部らと「母をたずねて三千里」を製作
- 富野由悠季とは、この辺りの作品で関わりがある
- この辺りの話は2019年のNHK連続テレビ小説「なつぞら」でも扱われた
- 1979年、高畑、小田部らと「赤毛のアン」を手がけるが、途中で抜ける

宮崎駿の 80 年代以前の作品を 振り返る

80年代以前の作品

- カルピスまんが劇場の「アルプスの少女ハイジ」、世界名作劇場の「母をたずねて三千里」「赤毛のアン」（映画製作のため抜ける）
- 「母をたずねて三千里」は南米の現地ロケをした上で制作している
- 1978年、NHK「未来少年コナン」で初監督
- 1979年、映画「ルパン三世カリオストロの城」で初映画監督

未来少年コナン

- 全26話にまったく無駄がない
- 「コナン」といえば「未来少年コナン」
- 宮崎作品の原型となるものがほぼ登場
- 宮崎駿の最高傑作だと思う
- Youtubeで違法でなく正規に全話視聴可能、見たことのない人はぜひ
- オープニングを少しだけ見てみましょうか…

カリオストロの城

- 映画はヒットせず、後にTV放映で人気が出て再評価される
- TV第1シリーズの「ルパン三世」の緑ジャケットを着たおじさん設定のルパン
- クラリスの声は、後に「ナウシカ」も演じた島本須美（「赤毛のアン」の声優オーディションで落ちていた）
- アニメージュのキャラクター人気投票でナウシカが登場するまでクラリスが常に1位だった
- 夜明けとともに事件が解決するという古典的なストーリー

宮崎駿の80年代作品を 振り返る

80年代のアニメ作品

- 1980年、TV「ルパン三世」の145話と最終回
- 1982年、「名探偵ホームズ」、漫画「風の谷のナウシカ」連載開始
- 1984年、映画「風の谷のナウシカ」
- 1985年、スタジオジブリ誕生
- 1986年、映画「天空の城ラピュタ」
- 1988年、映画「となりのトトロ」
- 1989年、映画「魔女の宅急便」

TV 第2シリーズ「ルパン三世」

- 145話「死の翼アルバトロス」と最終回155話「さらば愛しきルパンよ」を「照樹務」（テレコム）名義で担当
- 画面の密度が異様に高く映画並みの作品
- 145話と155話だけビデオとレーザーディスクで発売されたほど
- 155話に登場するロボット兵ラムダは後の「ラピュタ」へつながる
- 宮崎は第2シリーズのルパン三世が気に入らなかつたらしい

名探偵ホームズ

- 日伊合同製作のアニメとなるはずだった
- 1982年に6話分を製作したところで著作権などでもめてお蔵入りになった
- 6話中の2話は「風の谷のナウシカ」と同時上映
- 1984年、TV放送が決定、宮崎製作の6話を含めて全26話が放送された
- 宮崎製作の6話は他の20話とクオリティが違う

漫画「風の谷のナウシカ」

- 1982年から1994年までアニメージュで連載していた漫画
- 映画製作が始まると連載が止まる
- 漫画家になりたかった夢がかなうのだが、映画製作が前提でもあった
- 映画よりも複雑な設定であり、内容も大変奥深いもので、単なるエコロジー作品ではない
- 本来の構想では、土鬼での話の次にトルメキア王国の内紛に巻き込まれるという予定であった

漫画「風の谷のナウシカ」

- 現在のジブリのプロデューサーである鈴木敏夫はアニメージュの編集者であった
- 宮崎の才能にほれ込んだ鈴木は徳間書店に宮崎の企画した映画を製作させることを思いついた
- 上層部に「原作のない映画なんて無理」といわれたため、「原作があればいいんだ」と、宮崎にアニメージュで漫画連載を持ちかけた

映画「風の谷のナウシカ」

- 1984年、漫画が途中であったが「風の谷のナウシカ」は映画化された
- 映画化する際に設定を変更
- 土鬼は登場しない
- ほぼ漫画の第2巻中盤までの内容
- 友達の家ビデオがあったので、毎週末見ながらプラモを作ったりしていたため、セリフや効果音までほぼ覚えていた
- 原作と見比べると残念な内容ではある

映画「天空の城ラピュタ」

- 1985年、鈴木敏夫がスタジオジブリを立ち上げる
- ジブリにより宮崎と高畑は映画製作に専念できるようになる
- 1986年、映画「天空の城ラピュタ」公開
- 最初の興行成績はよくなかったが、TV放送などにより人気が出た
- もっとも宮崎らしい映画だと思う

映画「となりのトトロ」

- 1988年、映画「となりのトトロ」公開
- やはり、興行成績はよくなかったが、TV放送などにより人気が出た
- 同時上映は高畑が監督した「火垂るの墓」

映画「魔女の宅急便」

- 1989年、映画「魔女の宅急便」公開
- 原作は角野栄子
- 興行成績もよく、以後のジブリ作品に対する評価が定着するようになった
- ちなみに「宅急便」はヤマト運輸だけが使える商標→ヤマト運輸がスポンサーについた
- 当初は、「この世界の片隅に」の片渕須直が監督になるはずだったが、宮崎が監督に就任

軍事マニアとしての宮崎駿

宮崎駿の雑想ノート

- 1984～1990年、大日本絵画「モデルグラフィックス」で連載
- 1995～1996年「雑想ノート」の一部がニッポン放送でラジオドラマ化
- 宮崎の趣味がわかります
- 「雑想ノート」の最後は「飛行艇時代」＝映画「紅の豚」の原作

宮崎駿の雑想ノート

- 最初は読み物に絵が入っている感じでストーリー漫画ではなかった
- 徐々にコマ割りが入り、漫画となっていく
- 映画製作が終わると連載がされる
- 雑学と妄想の塊


泥まみれの虎

- 「モデルグラフィックス」で連載されたドイツ軍のタイガーIのエースであったオットー・カリウスの話
- タイガーIは第2次世界大戦のときのドイツ軍が使用した戦車
- 分厚い装甲と強力な主砲で、ほぼ無敵
- 欠点は重すぎ(57tもあった)て故障が多いこと、キャタピラー1枚で30kg
- 宮崎はドイツ人でないと動かせないだろうと言っている

宮崎駿と戦争

- 「モデルグラフィックス」で企画された「4号改造コンテスト」の漫画から
- 「宮崎さんは戦車のマンガなんかかいて戦争好きなんですか？」
- 「戦車だけじゃないよ。大砲やヒコーキや軍艦も好きだよ」
- 「そういう人だったの…」
- 「あのネーじゃなんですか」「エイズの研究者はエイズが好きで 異常犯罪を研究している者は犯罪者だとでもいうのかね」

宮崎駿と戦争

- 「戦車にかぎらず軍事一般は人間の暗部から来るものなのだ 人類の恥部 文明の闇 ウンコだ ゲロだ」「ウームおもしろい なんという愚かさだ…」
- 「 いいかね!! 戦車が強そうとかカッコイイから好きなんてのはな ただの無知のせいだ 初步だ カケダシダ」「戦車も軍隊の愚劣さ 民族の幼児性 歴史の残酷さ 人間の悲劇と喜劇 そのすべての…」 「結晶なのだ!!」

宮崎駿と戦争

- 戦争や兵器を調べたりすることが大好き
- だけど戦争は絶対反対という立場（私も同じだが…）
- 鈴木に「宮さんも、そろそろ、そういうのに決着をつけないと」といわれたために製作したのが「風立ちぬ」
- 「風立ちぬ」の漫画が「モデルグラフィックス」に連載された
- 大日本絵画「ジャーマンタンクス」は全部を何度も読んでいたという話

おわりに

宮崎駿という人

- アニメなんてのは映画が年に1本もあればいいんです
- セーラー服を着たのが機関銃を打ちまくるなんていうのはダメ
- 常に子どもを意識した作品を作る
- 自分自身の趣味と思想にギャップを抱えている
- 2023年公開予定「君たちはどう生きるか」を楽しみにしましょう

参考文献等

- ウィキペディア「宮崎駿」
- 宝島社「完全保存版ルパン三世」, 2003
- 双葉社「未来少年コナンオフィシャルガイド」, 2003
- ラポート「カリオストロの城大辞典」, 1982
- 徳間書店「ロマンアルバム風の谷のナウシカ」, 1984
- 徳間書店「風の谷のナウシカ」全7巻, 2010
- 今日持ってきてきます、見たい人はどうぞ

参考文献等

- 大日本絵画「宮崎駿の雑想ノート」，1992
- 大日本絵画「宮崎駿の雑想ノート増補改訂版」，1997
- 大日本絵画「泥まみれの虎」，2002
- 大日本絵画「ジャーマンタンクス」，2000
- 今日持ってきてきます、見たい人はどうぞ